北海道
日伊協会会報

VOL. 60 号　2018年10月
発行　北海道日伊協会
事務局　〒060-0051 札幌市中央区
南１東２　ブライトサッポロ内
電話(011)241-0345 FAX (011)241-0567

「札幌文化芸術劇場」がこけら落とし公演

イタリアの天才　バッティストーニさん指揮

オペラ「アイーダ」に満席熱狂

国際的な発信を目指す文化関連複合施設「札幌市民交流プラザ」が10月７日開館し、「札幌文化芸術劇場」(愛称 hitaru ヒタル)のこけら落としとしてオペラ「アイーダ」が上演された。道内初の多面舞台を擁する劇場でのグランドオペラは、イタリア人指揮者アンドレア・バッティストーニさんの指揮、札幌交響楽団の演奏で満席の約2100人の観客を熱狂させた。劇場の検討段階から関り、こけら落としオペラの企画にも尽力した北海道日伊協会の三部安紀子会長(一般社団法人　北海道二期会理事長)に、この日を迎えた感慨を書いていただいた。

10月7、8日の２日間にわたった「札幌文化芸術劇場」hitaru こけら落としのオペラ「アイーダ」が終了。劇場は凄い熱狂の雰囲気となった。特に初日の幕閉めは、客席にスタンディングオベーションが広がり、観衆の歓喜の反応は強烈だった。クラシックの音楽舞台公演でこれ程までの人々の熱いエールは、札幌でははじめての様な気がする。これまでの歩みはとても長く平たんではなかった。

国際創造都市を名乗る札幌にどうして劇場がないの！と言い続けて20年以上が経つ。はじめの頃は北海道立劇場が出来る･･･やがて道の予算が無いので民間と一緒に北海道劇場と名乗る･･･それもいつの間にか消え失せた。その後札幌市の方で積極的に立ち上がり、民間の声を聴きながら着々と実行に移し、札幌市民交流プラザが出来上がったのだ。

アイーダ第２幕＝写真提供:札幌文化芸術劇場 hitaru

hitaru は4階から9階までの吹き抜け、3層バルコニー構造の観客席は2302人を収容(オーケストラピット使うと2127席)、北海道初の多面舞台の幅広い演出を実現できる。

昨年のプレ演奏会でも示されたバッティストーニの魅力ある指揮振りに札響のオーケストラもすっかり踊らされた。ハードなスケジュールにも拘らず札響団員は口々に「楽しかった」と言った。如何に音楽の求める内容が充実しているかである。今世紀が生んだ若き天才指揮者が、札幌の劇場のこけら落としにオペラを振った、という事は歴史に残る出来事になるであろう、と言っても過言ではないと思う。

一体何が天才かというと、ソリストの歌詞、合唱の歌詞、オーケストラのパート全てを暗譜しているのだ。私は彼の４本のヴェ

プレ「アイーダ」のサローネ開く
佐々木アンリさんを迎えて
オペラの魅力にひたる

本格的舞台芸術鑑賞の場・札幌文化芸術劇場hitaruがオープンしオペラ元年を迎えるのを前に、一足先にそのオペラの魅力にひたるSalone d'Italia（イタリア懇話会）を7月21日の総会に合わせて開きました。

『Operaの魅力にひたる』―佐々木アンリさんを迎えて―と名付けたこのサローネ。札幌出身で北海道二期会会員の佐々木アンリさん（**写真㊤は懇親会で**）は、北星学園女子高、東京芸大声楽科を経てドイツで学んで活躍する期待のオペラ歌手。会場の札幌グランドホテル別館4Fひなげしは70人の聴衆で満席。

三部会長が札幌文化芸術劇場完成までのいきさつとオペラについて話した後、佐々木さんは山口玲子会員（ピアニスト、音楽講師）の曲目解説とピアノ伴奏で、アルディーテ作曲の「くちづけ」、ヴェルディ作曲のオペラ『運命の力』よりレオノーレのアリア「神よ平和を与えたまえ」などを、広い音域とよく伸びる声で歌い上げ、盛大な拍手を浴びました。

佐々木アンリさんは、来年3月の北海道二期会hitaru公演・ヴェルディの『椿姫』で主役出演が決まっています。

この後開かれた懇親会には26人が参加し（**写真㊦**）、佐々木さんと山口さんを囲んで、オペラへの期待や近況報告など、話が弾んでいました。

（**1ページから**）ルディのオペラ作品を観ているが、全て暗譜でプロンプター役も出来るほど。そして強烈なパッションで音楽をぐいぐい引っ張って導き出す力、バイタリティーに溢れ立体感ある素敵な音楽オペラを醸し出してくれる。彼が25歳の時から彼を見ており、その都度感動し、追っかけしたいと思ったほどだった。

今回こけら落としに強く推薦したのも正解で、心から嬉しく、札響も頑張って頂き感激、感激の一言に尽きる。指揮者も札響をとても気に入ったといっている。今後もバッティストーニが再び札幌に来て指揮する姿を見たい。

歌い手は伝令以外全てダブルキャスト。それぞれの持ち味で魅力ある表現力で歌いきった。これだけ声楽家ソリストの勢揃いは札幌ではじめてと言っていいだろう。歌唱力の素晴らしさに勇気をもらう。地元からもソリストはじめコーラスもかなり参加出来、今後の為にも良い経験となったと思う。切磋琢磨して頑張ってほしい。

北1条西1丁目にそびえる「札幌市民交流プラザ」の全体についても触れておきたい。「hitaru」のほかに「札幌文化芸術交流センターSCARTS」と「札幌市図書、情報館」を有する。

1F，2Fは札幌文化芸術交流センターといい、スカーツ（SCARTS）コート、スカーツスタジオなどがあり、スカーツコートではミニコンサートや講演会、作品展示会など各種イベントに幅広く利用できる。3Fはクリエイティブスタジオ。劇場の舞台と同じ広さがあり、オペラやバレエの練習には絶対にかかせない、特に公演近くなると舞台上の寸法が必要で、それにこたえる重要なスタジオになっている。

この札幌市民交流プラザの空間が市民全ての人々と共有できる魅力的な憩いの場であって欲しい。そしてもっともっとオペラを観に来て好きになってほしい！

（会長、一般社団法人北海道二期会理事長）

女子バレーボール世界選手権　札幌大会

熱烈応援！　イタリア　世界ナンバー1の中国を破る

女子バレーボールのイタリアチームが札幌にやってきました。9月29日から世界ナンバー1の中国など6ヵ国が北海きたえーるを舞台に世界選手権第 1 次ラウンドB組を戦いました。

われらイタリアチームは、順調に勝ち星を重ね最終日の10月4日、中国と全勝同士で対戦しました。

北海道日伊協会はマリアンナ・チェスパさんを団長に「即席応援団」をつくり、総勢26人が大きなイタリア3色旗を掲げて、大いに盛り上がりました。母国を応援するイタリア人5人の全身を使い大声で叫ぶ応援ぶりに熱いラテンの血を感じる瞬間でもありました。

会場は、ほとんど中国の応援で完全アウェイの状態でした。中国チームはさすがに強く、中国サポーターの勢いも凄く、1セットを奪われましたが、イタリアもペースをつかみ3セットを連取して逆転、みごとB組1位で第2次ラウンド進出を決めました。応援席は歓喜に包まれました。

「そ～れっ！」とのんびりサーブに掛け声をかけていたバレーボールしか知らなかった私にとっては、MCが会場を盛り上げるショーのような試合は新鮮で、とても楽しめました。

イタリアは第2次ラウンドも全勝で突破、15日、第3次ラウンドで日本と対戦し、日本を退けました。　（菅原明子）

「すべて自己裁量だった」―Salone　d' Italia　寺鍛冶会員がイタリア企業体験語る

「ヨーロッパ企業の文化－12年のオリベッティ体験から」と題したサローネは6月16日（土）北海道日伊協会伊語教室で開かれました。講師は寺鍛冶博史会員（**写真左**）。1971 年日本オリベッティ入社、世界初のオンライン金融端末機の納入プロジェクト担当、78年イタリア本社で日本語プリンタ開発を手掛けたほか、多くの外資会社にも勤務。その体験から、「事業所ごとの独立採算制で副社長がやたら多い。実は事業部長。赤字ならまずクビ」、「コミュニケーションを大切にし、目を見て話し、分かったというまで話し合う。決まったことには完全に従う」「ポジションで呼ぶことはない。ファーストネームで呼び合い上下関係はない。日本人は戸惑う」「自己主張できず人脈を作れない人はつぶれる」「労働時間は自己管理。時間外の観念はない」など、すっきりしていて分かり易かったと振り返りました。

イタリア中小企業の底力を見た！

国際農業機械展 in 帯広

伊語通訳５人が活躍

村田　雄穂

「第34回国際農業機械展 in 帯広」は7月12日から16日まで5日間、帯広市北愛国交流広場で開催されました。イタリアからは大使館貿易促進部とイタリア農業機械工業会が統括する「イタリア・パビリオン」に15社が個別のブースを展開し、そこに通訳として、北海道日伊協会の会員5人が派遣されました。

通訳団の顔触れは、札幌から、(株)ブライトサッポロ社を通して、松浦茂理事、片桐亜古氏、石田咲子氏、鈴木みお氏の4人、帯広からは、(株)古川貿易を通して私、村田でした。

国際農業機械展は4年に1回帯広で開催される、国内最大級の農業機械の展示会です。今回の出展社は134社で、イタリアのほか、ドイツ、スペイン、カナダ、中国、韓国などの海外の企業・団体が参加しました。

同じ会場で、地元帯広・十勝の料理や食材を味わえる「フードバレー十勝食彩祭」も同時開催されて、そこに50店が出店し、様々な食も楽しめます。本州、四国、九州など全国各地から、そして、アジア各国からも相当数の人々が訪れ、5日間の来場見学者20万人を超えました。

どんなイタリアの企業が？

私たち通訳5人は、適宜15社全部を担当する形で対応しました。時によっては、1社に見学者が集中して、同時に複数の通訳業務が必要な状況も発生するからです。

今回出展した企業は、全て北部イタリアに本拠地を置き、農業機械の部品をメインに製造している中小企業でした。この地域は、北イタリアを西から東に横断するイタリア最長の川、ポー川の南北両流域に広がる、広大なポー平野の中心部です。イタリアにおいてはもちろんのこと、ヨーロッパでも有数の穀倉地帯であり、酪農地帯です。その地で、大型小型各種の農業機械に取り付ける、実に様々な部品を製造・提供している会社なのです。それで、ブースに展示されている品物は、素人が見てもわかるような完成された機械ではありません。私個人的には、北海道で10年以上に渡り、イタリア製の農業機械製品の販売やメンテナンスに係わる通訳業務を行ってきていたので、部品を見れば、どれが、どんな機械のどの部分に組み込まれていて、どんな機能を果たしているのか、知っていましたから、とても馴染みのある光景でした。ここ最近追

加導入された新しい技術や性能を知ることができたのも面白かったです。

通訳業務の内容は、一般見学者向けには、イタリア人スタッフが行う展示製品特徴の説明や質問・返答の通訳でしたが、展示会の後半には、日本の農機具メーカーや販売会社のスタッフとの商談通訳が増えていきました。当然ですが、その際には、細部に渡っての技術的・専門的用語を駆使することも必要になりました。

パビリオンの中 そこはもうイタリア

片　桐　　亜　古

帯広・北愛国交流広場を埋め尽くすように国内外の企業によるブースが立ち並ぶ第34回国際農業機械展の会場。 パビリオンに一歩足を踏み入れると、もうそこはイタリアです（**写真**）。一角にエスプレッソマシーンが設えられ、朝到着すると、そこでまずエスプレッソを片手にしばし歓談。まるでイタリアの街中のバールにいるかのようでした。通訳スタッフの面々はその場の空気にすぐ馴染み、担当者たちとも以前からの知り合いのように和気藹々とした雰囲気で、彼らとの意思の疎通もスムーズです。

２日目には大使館主催のパーティーが開催され、出展企業の担当者たちの家族や知人・友人も加わり、ワイン片手に話に花が咲きました。そして最終日。「Ci vediamo fra quattro anni（4年後にまた会いましょう）」と挨拶を交わしつつ、ひとり、またひとりとパビリオンを後にする企業の方々を大使館員と共に見送りました。Buon rientro & Buon proseguimento!

（会員、札幌大谷大学非常勤講師）

なぜ、イタリア企業が？

ポー川流域の広大な平野では、大規模経営の農業が展開されているのですが、その地域では、農業生産の省力化が日本より遥か以前から求められていました。（この歴史的経緯を調べるだけで、立派に論文数本が書けますから、関心のある方は挑戦してみては？）ですから、人に喜んでもらえる、良い物を作りたいというイタリア人の天性ともいえる職人気質もあって、昔から優れた農業機械及び部品の製造が行われており、その品質は、ヨーロッパのトップクラスです。当然、ロシア・東欧も含めて、ヨーロッパ各国や、アメリカ大陸には浸透しているのです。

しかし、日本を含めたアジア地域の市場は、これから本格的に開拓という状況です。アジア地域の独特の農業生産の形態もあり、容易ではないにしても、日本やアジア各国における農業生産部門での、産業交流、共同開発、提携などのパートナーシップの促進を目的に、今回の帯広での出展に至ったわけです。

日本では、既に何社かの農業機械メーカーに部品を供給していて基盤を持っている会社もあったのですが、大半はまだ提携先を持たない会社でした。今回はイタリア政府（具体的には、産業発展省）の財政的支援もあって、これまでにない規模で出展してきたというわけです。

ボローニャの農業機械展

さて、イタリアの農業機械の素晴らしさを実際に見ることのできる絶好の機会をご紹介しましょう。「エイマ（EIMA）」と呼ばれる国際農業機械展で、ボローニャ市郊外の常設見本市会場で、2年ごとに開催されます。ヨーロッパ第2の規模といわれ、イタリア内外の約1，900社が出展します。今年は11月7日から11日まで。次回は2020年開催ですから、この時期にイタリア旅行を企画して、訪れてみてはいかがでしょうか？美術館・博物館などの名所・名跡巡りとは違うイタリアの一面が見られると思います。

（会員、帯広イタリア言語文化教室主宰）

Tazio Nuvolari 北海道　　2日目は雨中の疾走

五十嵐　飛鳥

マリアンナさんを挟んで記念撮影

道内をクラシックカーで駆け巡る「Tazio Nuvolari」が7月14日から7月16日まで開催されました。

今年のコースは千歳をスタートとし、小樽、積丹半島、ニセコ、洞爺湖、支笏湖を経て苫小牧から千歳のゴールに戻るという道央の景勝地巡るものでした。北海道日伊協会からは、私と父五十嵐正幸の親子を含めマリアンナさんのチーム2組が参加しました。

僕と父は2日目の朝、小樽から参加させていただきました。スタート直前から小雨が降り出し、計測ポイントの飛行場に到着した時には土砂降りの雨となっていました。他の参加車両の中でもオープンカーで参加された方たちは雨具を着用しながらも、ずぶ濡れになりながらの走行で、とてもハードなラリーとなりました。

また、私たちの運転する車(Dino246gt)にはエアコンが取り付けられていないのに、雨が車内に侵入するため窓が開けられず、車内は蒸し風呂に近い状態になり、しっかり記憶に刻まれる大変な思いをしました(笑)。土砂降りの雨の影響で計測機は作動せず、昼食場所で海鮮丼をいただいた後、2日目最終目的地のヒルトン・ニセコまで走りました。

最終日の3日目は、ニセコから洞爺湖を経、苫小牧にてイタリアンの昼食、ゴールは、千歳ビール園駐車場というコースでしたが、天気にも恵まれ、とても気持ちよく走ることができました。特に洞爺湖周辺の道は、木のトンネルのような道や、洞爺湖を横に眺めながら走るコースは、とても気持ちよく走ることができ、印象に残るシーンとなりました。

今回初めてドライバーとして参加させていただきましたが、とても楽しい思い出となりました。来年の開催もあるとのことでしたので、ぜひ来年も参加させていただきたいと思いました。　　(会員、札幌商科大学生)

国際プラザボランティアネットワーク30周年祝う

札幌国際プラザのボランティアネットワーク活動 30 周年を記念したフォーラムが10 月 20 日開かれました。

ここのネットワークには日伊協会員も何人かが参加し、現在も活動中。フォーラムに参加したのは**写真**左から駐札幌大韓民国総領事館副領事パク・ハヨンさん、在札幌ロシア連邦総領事館アタッシュ、ダニロワ・オリガさん、在札幌米国総領事館広報文化交流担当領事ライアン・イングラッシアさん、中華人民共和国駐札幌総領事館商務担当領事オウ・ギョクエイさん、在札幌オーストラリア領事館領事ロン・グリーンさんが次々に短い時間で講演。それぞれの国の観光文化紹介、札幌との関連事業、お国自慢、日本人の親切さなどを語りました。この後、記念式典、祝宴があり、和やかなうちに終了しました。　　(米倉紘一理事)

オープンセミナー「安田侃の彫刻広場　アルテピアッツァ美唄」　(無料)

講師：安田琢氏　NPO 法人アルテピアッツァ美唄理事

11 月 24 日(土)14 時から札幌国際プラザ会議室　申し込み：電話 011・211・2105　FAX　011・232・3833

主催：札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワークロマンス語ユニット　後援：北海道日伊協会

Salone　d'Italia（イタリア懇話会）のお知らせ

ファットリアビオ創業５年目の高橋廣行さんが語る

チーズ作りから始めた 北海道のイタリア化

11月17日(土)午後３時～５時

会場:果実倶楽部 818　札幌市中央区南３西３もりにビル５階

会費：会員 2,500 円、一般 3,000 円（ワンドリンク・軽食付き）

日本には本物のチーズがない―イタリア人の嘆きを聞いて、イタリアからチーズ職人を招いて本場のチーズ作りに乗り出した挑戦者の目指すものは？チーズの試食しながら、北海道とイタリアを考えるひと時です。

申し込みは 10 日までに**電話:090 - 1386－3316**（菅原）

Eメール:shin-y0123@brightsapporo.com

hitaru オープニングシリーズ公演

北海道二期会オペラ「椿姫」La Traviata

2019 年 3 月 10 日 14 時開演

オペラサローネで歌った佐々木アンリさんが主役のヴィオレッタ役、会員の延与幸恵さんら出演。指揮　現田茂夫、札幌交響楽団,

◆チケットはプレイガイドなどで一般販売中。

（SS 席 14000 円、S 席 12000 円、A 席 10000 円、B 席 8000 円、C 席 5000 円、D 席 3000 円 ）

春以降に開催されたサローネ

Salone　d' Italia

■6 月 16 日「ヨーロッパの企業文化」講師:寺鍛治博史会員＝3面参照

■6 月 21 日「オペラの魅力にひたる―佐々木アンリさんを迎えて」=2面参照

サローネ CINEMA　■6 月 12 日「ローマに消えた男」

会報到着（事務局にあります）

■新潟イタリア協会　第 10 号

表紙に朝焼けのミラノのドゥオーモ。巻頭にマリオ・ペルヴェルシ会長の「イタリアの至宝」連載第１回アブルッツォ州にある中世の城「Rocca Calascio」の紹介（伊和対訳）。ほか読み物多く、冊子風のつくり。

■名古屋日伊協会 2018 年第 5 号

イタリア・アモーレ・ミオ！名古屋初開催、姉妹都市トリノ市と縁のあるアーチストが多数来日したと報告。「建築探訪マニアック・ローマ」（河辺泰宏愛知淑徳大教授）など多数の連載。

【レストラン Natsuki】

今月はピアニスト南山雅樹さんをお迎えしてミニライブ＆楽しいトークタイム。

11 月 19 日（月） 18 時 30 分～20 時 45 分、ライオン 2 階エビスホール（狸小路 2 丁目）会費 4,000 円。※事前予約必要、011-222-2022 または、music3@brightsapporo.com 佐々木まで。

編集後記　この秋、台風と地震で打ちのめされた北海道。札幌文化芸術劇場 hitaru のオペラ「アイーダ」の興奮がわずかに灯をともした。来春には地元のオペラ「椿姫」が待つ。長く待望されたこの劇場が産み出すものを想像して少し明るい気持ちになる▼「イタリアチームを応援してください」―それは日本バレーボール協会の守山隆司さん（札幌出身）の来訪で始まった。世界女子バレーの札幌開催は誰も知らなかった。マリアンナさんが団長を引き受け、その盛り上がりは 2 ページに。イタリアは決勝進出、みごと準優勝。期待に応えた▼たまたま「ルーベンス展」を見た（国立西洋美術館、1 月 20 日まで）。スタラーチェ大使の挨拶文は、フランダースの犬の主人公が憧れたこの画家がイタリアから多くを学んだことを指摘し、印象的だった▼会報は 60 号、還暦を迎えた。事務局が宮川建設さんからブライトサッポロさんに変わり、5 年ぶりの総会を伝えた復刊が 32 号。題字は創立者の故・村田忠良元会長に書いていただいた。以来、いつも情熱的な会員の執筆と熱心な読者に励まされています（金子）